

平成 29 年度 公立小中学校における長期欠席（不登校）の状況等（データ）

（表 2）不登校児童生徒（30 日以上欠席者）数の推移（公立小中学校）

区分	小学校				中学校				不登校児童生徒数の合計(人)
	(A)全児童数 (人)	(B)不登校児童 数(人)	不登校児童数 の増▲減率 (%)	B/A×100 (%)	(A)全生徒数 (人)	(B)不登校生徒 数(人)	不登校児童数 の増▲減率 (%)	B/A×100 (%)	
H25	99,580	489	25.1	0.49	50,852	1,336	▲ 1.5	2.63	1,825
H26	98,056	456	▲ 6.7	0.47	50,022	1,447	8.3	2.89	1,903
H27	96,501	443	▲ 2.9	0.46	49,716	1,478	2.1	2.97	1,921
H28	95,438	545	23.0	0.57	48,703	1,486	0.5	3.05	2,031
H29	94,466	566	3.9	0.60	47,650	1,549	4.2	3.25	2,115

（表 3）不登校の要因（複数回答）

（単位：人）

区分 分類	小学校										中学校											
	分類別児童数	学校に係る状況									家庭に係る状況	分類別生徒数	学校に係る状況									家庭に係る状況
		いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動、部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐる問題	入学、転編入学、進級時の不適応	いじめ			いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動、部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐる問題	入学、転編入学、進級時の不適応			
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	51	0	36	15	6	1	0	1	3	14	270	1	226	18	30	10	19	7	13	65		
「あそび・非行」の傾向がある。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	93	0	11	1	27	6	0	36	4	60		
「無気力」の傾向がある。	170	0	8	5	35	0	0	3	8	134	517	0	72	9	190	35	16	20	52	277		
「不安」の傾向がある。	213	0	58	7	41	5	0	7	13	109	489	0	204	15	138	62	39	9	78	157		
「その他」	132	0	10	2	7	0	0	0	1	96	180	0	13	4	22	6	3	6	16	89		
計	566	0	112	29	89	6	0	11	25	353	1,549	1	526	47	407	119	77	78	163	648		

（表 4-1）不登校児童生徒への指導結果状況

（単位：人）

区分	小学校	中学校
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	83	304
指導中の児童生徒	483	1,245
うち継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	129	310
計	566	1,549

(表4-2)「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置(複数回答)

区 分	小学校		中学校	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。	59	71.1	75	24.7
全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあたった。	34	41.0	100	32.9
教育相談担当の教師が専門的に指導にあたった。	13	15.7	30	9.9
養護教諭が専門的に指導にあたった。	15	18.1	30	9.9
スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。	31	37.3	61	20.1
友人関係を改善するための指導を行った。	28	33.7	38	12.5
教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。	30	36.1	62	20.4
授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。	19	22.9	22	7.2
様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。	31	37.3	36	11.8
保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。	19	22.9	57	18.8
登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。	39	47.0	125	41.1
家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。	47	56.6	164	53.9
保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。	37	44.6	85	28.0
教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。	21	25.3	22	7.2
病院等の医療機関と連携して指導にあたった。	9	10.8	17	5.6
その他	0	0.0	0	0.0

(表5-1) 専門的な相談・指導等を受けた実人数と受けていない人数

(単位:人)

	小学校	中学校	計
不登校児童生徒数	566	1,549	2,115
学校内、学校外において担任以外の専門的な相談・指導等を受けていない人数	173	539	712
学校内、学校外において担任以外の専門的な相談・指導等を受けている実人数	393	1,010	1,403

(表5-2) 相談・指導等を受けた学校内の専門家等(複数回答)

区 分	小学校		中学校		計	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
学 校 内	養護教諭による専門的な指導を受けた人数		113	45.2	324	49.3
	スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた人数		174	69.6	442	69.4
	上記による相談・指導等を受けた実人数		250		637	

※(構成比は上記による相談・指導を受けた実人数に対する割合)

(表5-3) 専門的な相談・指導等を受けた学校外の機関等(複数回答)

区 分	小学校		中学校		計	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
学 校 外	教育支援センター(適応指導教室)		96	36.8	304	46.8
	教育委員会及び教育センター等教育委員会所管の機関		87	33.3	128	25.2
	児童相談所、福祉事務所		59	22.6	91	17.6
	保健所、精神保健福祉センター		7	2.7	6	1.5
	病院、診療所		78	29.9	177	29.9
	民間団体、民間施設		11	4.2	19	3.5
	上記以外の機関等		12	4.6	21	3.9
	上記の機関等での相談・指導等を受けた実人数		261		593	

※(構成比は上記の機関等での相談・指導を受けた実人数に対する割合)